

CredNex テスト環境利用ガイド

Version 2026.08.05



Table of Contents

1. テスト環境の位置づけ	1
2. 接続環境	2
2.1. URL	2
2.2. オンライン時間	2
2.3. 推奨環境	2
2.4. 環境利用不可日	2
2.5. 各ファイル仕様・サンプルファイル	2
3. テスト環境の構成	3
3.1. 銘柄の種類	3
3.2. ユーザ別の構成	3
3.3. AP のご利用方法	4
3.4. AM のご利用方法	6
3.5. TB のご利用方法	7
4. ユーザIDの払い出しと管理	8
4.1. 払い出しの考え方	8
4.2. 作成できるユーザの権限	8
4.3. ご留意事項	8
5. 連動テスト	9
5.1. 実施対象	9
5.2. 使用する銘柄	9
5.3. 日程調整	9
6. テスト環境固有の制約とご留意事項	10
6.1. 全ユーザ共通	10
6.2. 実銘柄をご利用の場合	10
7. お問い合わせ先	11
7.1. お問い合わせの際のお願い	11

Chapter 1. テスト環境の位置づけ

本書は、CredNexテスト環境の利用方法を説明する文書です。

新規参画時に実施いただく必須テストの内容は、別文書「新規参画組織向けユーザテスト仕様書（AM編／AP編／TB編）」をご参照ください。

CredNex テスト環境は、以下の2つの目的で常設提供している環境です。

目的	対象
新機能の試用	すべてのユーザ。本番環境へのリリース前に、本番業務に影響を与えることなく新機能を確認できます
新規参画組織のオンボーディングテスト	新規参画組織。本番運用開始前の必須テストを実施します

- **新機能は必ずテスト環境に先行して反映されます。**本番環境へのリリース前に、テスト環境で事前にご確認いただけます。
- テスト環境への反映時期は、CredNexユーザポータルサイトへの掲載およびメールでご案内します。
- **新機能をお試しいただいた結果について、事務局への報告は原則不要です。**完了報告が必要な場合は、別途アナウンスを実施します。

Chapter 2. 接続環境

2.1. URL

CredNex テスト環境

<https://stg.crednex.jp.co.jp>

2.2. オンライン時間

営業日 7:00～22:00

2.3. 推奨環境

OS: Windows 11

ブラウザ: Google Chrome または Microsoft Edge

2.4. 環境利用不可日

CredNexは利便性向上のため開発を継続しています。そのため、環境が利用できない日が発生する可能性があります。

利用不可日時は事前にアナウンスし、CredNexユーザポータルサイトで公開します。

2.5. 各ファイル仕様・サンプルファイル

CredNexユーザポータルサイトの「ファイル設計書 / サンプルファイル」をご参照ください。

Chapter 3. テスト環境の構成

3.1. 銘柄の種類

テスト環境では、以下3種類の銘柄を使用します。

銘柄の種類	説明	操作できる組織
実銘柄	本番運用開始後に実際に使用される銘柄です。AMの申請内容を基に、CredNex本番環境・テスト環境の双方に登録されています。本番と同じ銘柄マスタ・同じ関係者でテストできるため、本番運用を忠実に再現できます。	銘柄の発行者であるAM、指定参加者として登録されたAP、および銘柄を受託するTB ※テスト環境では、事務局がAM各社専用のダミーAPを指定参加者として紐付けます
テスト銘柄	AP各社が自由に申込登録できる、事務局が用意した銘柄です。金銭型ETF用4銘柄（AT020・AT030・AT040・AT110）と現物型ETF用3銘柄（AT210・AT220・AT230）があります。AM・TBの役割は事務局のダミーユーザ（事務局AM・事務局TB）が担い、申込後の承認が自動処理されます。	当該APと事務局のみ （他組織からは閲覧・操作不可）
事務局管理銘柄	事務局とTBの連動テスト用の銘柄です。事務局がAM・APの役割を担い、TBは計算書の承認・差戻を確認できます。各TBに2銘柄ずつ払い出されます。	当該TBと事務局のみ （他組織からは閲覧・操作不可）

- ・ **実銘柄**は、AMの銘柄マスタ登録申請に基づいて登録されます。テスト環境・本番環境の双方に同じ内容で登録されますが、**銘柄マスタは環境ごとに独立**しているため、テスト環境で編集した内容が本番環境に反映されることはありません。
- ・ **連動テストでは、ご利用者を問わず実銘柄を使用します**。テスト銘柄・事務局管理銘柄は他組織に閲覧権限がないため、連動テストには使用できません。

3.2. ユーザ別の構成

ご利用者（AP・AM・TB）ごとに、**相手方の組織と調整せずに実施できる範囲**が異なります。表の並びは、申込の流れ（AP申込 → AM承認 → TB計算書承認）に沿っています。

NOTE

MM（マーケットメーカー）の皆さまへ

本章はAP・AM・TBを対象としています。MMの皆さまは、**取次を行うAPとの連動テスト**にご参加いただく形を想定しています。

ご利用者	AP役	AM役	TB役	使用する銘柄	テストの進め方
AP	実AP（貴社）	事務局AM	事務局TB	テスト銘柄	相手方の操作なしで実施可能 （事務局が承認等を自動処理） 申込登録～計算書取得
AM	ダミーAP （事務局提供）	実AM（貴社）	— （計算書登録以降は 実TBとの連動テスト）	実銘柄	相手方の操作なしで実施可能 （ダミーAPを使用） 申込登録～AM承認、各種情報の登録・取得 ※受託TBへの事前連絡が必要

ご利用者	AP役	AM役	TB役	使用する銘柄	テストの進め方
TB	事務局AP	事務局AM	実TB（貴社）	事務局管理銘柄	自社のみではテスト不可 事務局との連動テストで実施 （申込～計算書登録を事務局が代行） 計算書承認～差戻

TBの皆さまへ

TBがCredNex上で操作できるのは計算書承認以降のフローです。そのため、**TBは自社のみではテストを完結できません。**

以下のいずれかの方法でテストを実施していただきます。

IMPORTANT

- ・ **実AM・実APとの連動テスト：** 実銘柄を使用し、本番運用フロー全体を検証します。申込の登録に実AP、承認・計算書登録に実AMの参加が必要です
- ・ **事務局との連動テスト：** 事務局管理銘柄を使用し、申込～計算書登録を事務局が代行します。新規参画時のオンボーディングテストや、TBに関わる機能に大きな変更があった際に、事務局よりアナウンスします

上記の範囲を超えるテスト（本番運用フロー全体の検証）は、相手方の組織と日程を調整して行う**連動テスト**として実施します。詳細は「連動テスト」の章をご参照ください。

3.3. AP のご利用方法

確認したいことから、使用する銘柄を選んでください。

確認したいこと	使用する銘柄	相手方
申込登録から計算書取得までの一連の操作を確認したい	テスト銘柄 （金銭型・現物型あり）	不要（事務局が自動処理します）
実際のAM・TB・MMと連携して本番運用フローを確認したい	実銘柄	実AM・実TB・MM（連動テスト）

3.3.1. テスト銘柄の使い分け

テスト銘柄は**金銭型ETF用（AT020・AT030・AT040・AT110）と現物型ETF用（AT210・AT220・AT230）**の計7銘柄をご用意しています。

テスト銘柄への申込登録後、CredNex事務局が自動的かつ定期的にAM承認・拒否、AM取消承認・取消拒否を操作することで、各社APのテスト実施を支援します。

- ・ 事務局による自動操作は、**2分以内**に処理されます。
- ・ **申込日が当日に設定されている申込**が自動処理の対象です。申込日が翌営業日以降の場合、自動処理は行われません。

確認したい挙動によって、以下の銘柄を使い分けてください。

銘柄コード	商品属性	AM承認（申込）	AM承認（取消申請）	計算書	用途
AT020	金銭型	自動承認される	自動承認される	申込日の翌営業日21:30に代理生成される	・AMが申込を承認するケース ・AMが取消申請を承認するケース ・債務引受ありの決済サイクルで確認したいケース
AT030	金銭型	自動拒否される	なし	なし	・AMが申込を拒否するケース
AT040	金銭型	自動承認される	自動拒否される	なし	・AMが取消申請を拒否するケース ・債務引受なしの申込のケース
AT110	金銭型	自動承認される	なし	債務引受ありの場合、計算書確定日の21:30に代理生成される	・設定申込で債務引受あり ・なしを指定して申込を行うケース
AT210	現物型	自動承認される	自動承認される	自動登録・承認される（2分おき）	・AMが申込を承認するケース ・取消申請が承認されるケース ・計算書確定まで進めたいケース
AT220	現物型	自動拒否される	なし	なし	・AMが申込を拒否するケース
AT230	現物型	自動承認される	自動拒否される	なし	・AMが取消申請を拒否するケース

現物型ETF用銘柄の申込の数量指定方法は、設定申込がPCFおよびユニット数、交換申込が口数です。

3.3.2. 各銘柄の債務引受と決済サイクル

銘柄コード	商品属性	債務引受（設定）	債務引受（交換）	計算書確定日	決済日
AT020	金銭型	あり	あり	T+1	T+2
AT030	金銭型	あり	あり	T+1	T+2
AT040	金銭型	なし	なし	T+0	T+0
AT110	金銭型	あり または なし	なし	債務引受ありの場合 T+1 債務引受なしの場合 T+0	債務引受ありの場合 T+2 債務引受なしの場合 T+0
AT210	現物型	あり または なし	あり	T+0	債務引受ありの場合 T+2 債務引受なしの場合 T+0
AT220	現物型	あり	あり	T+0	T+2
AT230	現物型	なし	なし	T+0	T+0

※ 本表は**銘柄マスタの設定値**です。AM拒否される銘柄（AT030・AT220）や、計算書の自動処理・代理生

成の対象外となる銘柄では、計算書は生成されず決済にも至りません。各銘柄で実際にどこまで進むかは「テスト銘柄の使い分け」の表をご参照ください。

3.3.3. 計算書の入手方法（金銭型ETFと現物型ETFの違い）

計算書の入手方法は、商品属性によって異なります。

商品属性	計算書の登録・承認	計算書の入手方法
現物型ETF	事務局が自動処理	申込が「承認済」に遷移すると、2分おきの自動処理で計算書が登録・承認され、「計算書確定済」まで遷移します
金銭型ETF	自動登録・自動承認の機能は未提供	債務引受ありの申込に限り、計算書確定日の21:30に、CredNexの計算書代理生成機能によって計算書が生成されます

NOTE

金銭型ETFの計算書代理生成について

計算書の代理生成は、本来は「万が一AMおよびTBが計算書を確定できなかった場合でも清算するための運用機能」です。APテストユーザがAM・TBに成り代わって計算書の作成から承認まで実施するのは困難なため、テスト環境ではこの機能を代替として利用しています。
このため、生成された計算書は「NAV種別」項目が0（計算書確定日の時限までに「計算書確定済」に遷移せず、CredNexによって代理生成された場合のフラグ）となる点にご留意ください。

実際のAMが登録した計算書を用いるテストを実施される場合は、連動テストの中で実施してください。

3.4. AM のご利用方法

確認したいことから、使用する銘柄と相手方を選んでください。

確認したいこと	使用する銘柄	相手方
申込登録からAM承認までの操作、および各種情報の登録・取得を確認したい（自動承認・取消承認・強制取消・銘柄マスタ・申込受付不可日・PCFを含む）	実銘柄	不要（ダミーAPを使用） ※受託TBへの事前連絡が必要
計算書を登録し、TB承認・計算書差戻を確認したい	実銘柄	実TB（連動テスト）

3.4.1. ダミーAPの紐付け

テスト環境では、CredNex事務局が貴社の銘柄に、貴社専用のダミーAPを指定参加者として紐付けます。

これにより、AMは他社との日程調整なしに、申込登録からAM承認までの一連の操作を確認できます。

- 紐付けは**銘柄の登録と同時に事務局が実施**します。貴社での別途申請は不要です。
- 紐付けの対象はテスト環境のみです。本番環境の銘柄にダミーAPが紐付くことはありません。
- 貴社専用のダミーAPであるため、**他組織のAM・APから貴社の申込が見えることはありません**。

WARNING

ただし、銘柄を受託するTBには通知・表示されます

実銘柄をご利用いただくため、ダミーAPが申込を登録すると**銘柄を受託するTBにも申込の通知メールが配信され、実TBの申込一覧画面にもテスト申込が表示されま**

す。
相手方の操作なしで実施できるのは「申込登録からAM承認までの操作」であり、**関係組織への通知が発生しない、という意味ではありません。**
テスト実施前に、受託TBへ「テスト目的の申込である旨」をご連絡ください。

NOTE

今後の予定

将来的に、AMご自身がCredNexのGUI画面で指定参加者を設定できるようになる予定です。
機能提供後は、テスト環境のダミーAPの紐付けについても**貴社ご自身でメンテナンスいただく運用に移行**いたします。移行時期は別途ご案内します。

3.4.2. 計算書登録以降のフロー

計算書承認・計算書差戻の確認は、銘柄を受託する**実TBとの連動テスト**で実施してください。詳細は「連動テスト」の章をご参照ください。

3.5. TB のご利用方法

確認したいことから、使用する銘柄と相手方を選んでください。

確認したいこと	使用する銘柄	相手方
計算書の承認・差戻、および各種情報の取得を確認したい	事務局管理銘柄	事務局（申込～計算書登録を事務局が代行）
実際のAMが登録した計算書で本番運用フローを確認したい	実銘柄	実AM・実AP（連動テスト） ※申込の登録に実APの参加が必要です

3.5.1. 事務局による代行操作

TBが操作できるのは計算書承認以降のフローです。そのため、**申込～計算書登録は事務局が代行**します。

代行操作は、**新規参画時のオンボーディングテスト**および**TBに関わる機能に大きな変更があった際**のご利用を想定しています。

- 実施にあたっては、対象となるTBの皆さまへ**事務局よりアナウンス**します。実施日は個別に調整します。
- 新規参画TBのオンボーディングテストでは、**原則2回**の代行操作を実施します。

Table 1. 代行操作日の流れ

時間帯	実施内容	実施者
午前（正午12時まで）	申込登録～計算書登録	事務局
午後	計算書の承認または差戻	TB（貴社）
16時まで	差し戻された計算書の再登録	事務局
16時以降	再登録された計算書の承認	TB（貴社）

- 差戻前後の計算書の内容は同一です。
- 各回において事務局が登録する申込は、1銘柄に対して設定申込1件・交換申込1件です。1社のTBにつき合計4件の申込が登録されます。

Chapter 4. ユーザIDの払い出しと管理

4.1. 払い出しの考え方

CredNex事務局からお渡しするのは「**ユーザ管理者**」のIDです。

テスト環境でテストを実施するユーザIDは、**ユーザ管理者が貴社内で自由に作成・変更・削除**していただけます。

手順	実施者	内容
1	貴社	組織追加の申請書をご提出
2	事務局	組織を登録し、 ユーザ管理者のID・パスワードを払い出し ※AMの場合、あわせてダミーAP組織とそのユーザ管理者も払い出します
3	貴社（ユーザ管理者）	必要な権限のユーザを貴社内で作成

ユーザ管理者の払い出し後、ユーザの追加・変更・削除について事務局への申請は不要です。

4.2. 作成できるユーザの権限

ユーザ管理者が作成できるユーザの権限は、組織の種別により以下のとおりです。

組織	ユーザ種別	権限
AP	AP申込ユーザ（申込者）	申込、取消申込が可能
AP	AP承認ユーザ（承認者）	申込の承認・拒否、取消申込の承認・拒否が可能
AM	AM権限ユーザ	申込の承認・拒否、取消申込の承認・拒否、強制取消、計算書登録、PCFの登録・無効化が可能
AM (ダミーAP組織)	ダミーAP権限ユーザ	申込、取消申込、申込の承認・拒否、取消申込の承認・拒否が可能 ※委託デスクとして登録されるため、申込者・承認者の区別はありません
TB	TB権限ユーザ	計算書の承認・差戻が可能

- APの委託デスクの場合、申込者・承認者の区別はありません。
- ダミーAP権限ユーザは、AMに払い出される**ダミーAP組織のユーザ管理者**で作成してください（AM組織のユーザ管理者では作成できません）。

4.3. ご留意事項

- 二要素認証の認証コードは、**ユーザIDとして指定したメールアドレス**に届きます。実在し受信可能なアドレスをご指定ください。
- テスト環境と本番環境のユーザは**それぞれ独立**しています。テスト環境で作成したユーザが本番環境に反映されることはありません。

Chapter 5. 連動テスト

複数の組織が同一の申込に対して操作することで、本番業務運用フローを検証するテストです。

5.1. 実施対象

ご利用者	相手方	主な確認内容
AP	銘柄の発行者である実AM 銘柄を受託する実TB 顧客であるMM	申込登録 → AP承認 → AM承認 → 計算書確定 MMからの申込に対するAP承認・拒否
AM	銘柄を受託する実TB	計算書登録 → TB承認 / TB差戻 → 計算書再登録 ※申込の登録はダミーAPで行えます
TB	銘柄の発行者である実AM 指定参加者である実AP	実APの申込登録 → 実AMの承認・計算書登録 → 計算書承認・差戻

5.2. 使用する銘柄

連動テストは本番運用を忠実に再現するため、**実銘柄**をご利用ください。
テスト銘柄・事務局管理銘柄は、他組織に閲覧権限がないため連動テストには使用できません。

5.3. 日程調整

相手方の組織と直接ご調整ください。

Chapter 6. テスト環境固有の制約とご留意事項

6.1. 全ユーザ共通

- **債務引受データは現物清算システムに連携されません。**債務引受有りの申込であっても、CredNex上で承認された債務引受情報を現物清算システムで参照することはできません。
- **DVP清算値段・NAV調整金は実際の値とは異なります。**テスト環境の値は、CredNex事務局が定期的に登録したものです。
 - 金銭型ETF かつ 債務引受有りの申込に関する申込情報および計算書情報を取得した場合、事務局が独自に登録したDVP清算値段が含まれた状態で出力されます。
 - 本措置は、計算書・PCFの登録や、申込受付不可日の登録処理には影響しません。

6.2. 実銘柄をご利用の場合

WARNING

関係組織への通知

テスト環境で実銘柄に申込を登録すると、**銘柄を受託するTBを含む関係組織にも通知メールが配信されます。**また、関係組織の申込一覧画面にもテスト申込が表示されます。
テスト実施前に、関係する組織へ「テスト目的の申込である旨」をご連絡ください。

自動承認条件について（AM向け）

自動承認はデフォルトでOFF（自動承認されない）設定です。自動承認のテストを実施される場合は、テスト環境の銘柄マスタをAMご自身で変更してください。
テスト環境の銘柄マスタは本番環境と独立しているため、変更内容が本番環境に反映されることはありません。

Chapter 7. お問い合わせ先

テスト環境のご利用に関するご質問・ご相談・不具合のご報告は、以下までご連絡ください。

東京証券取引所 株式部 CredNex担当

メール

ask-crednex@jpx.co.jp

※メール件名に「組織名」を記載いただきますと幸いです。

電話

03-3666-0141（代表）

※清算制度に関するご質問は、日本証券クリアリング機構（JSCC）へお問い合わせください。

7.1. お問い合わせの際のお願い

システムの動作についてお問い合わせいただく際は、以下の情報を添えていただけますと調査がスムーズです。

- 発生日時
- 操作していた画面（またはAPIのエンドポイント）
- 対象の申込番号・銘柄コード
- 操作内容と、期待した結果／実際の結果
- 登録を試みたファイル（PCF・計算書・銘柄マスタ・申込受付不可日など）
- 画面のスクリーンショット
- エラーログ（APIをご利用の場合など、お手元にあれば）